

四半期報告書

(第43期第3四半期)

株式会社アルバイトタイムス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
2 【その他】	16
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	17

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年1月13日

【四半期会計期間】 第43期第3四半期(自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日)

【会社名】 株式会社アルバイトタイムス

【英訳名】 ARBEIT-TIMES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 垣内 康晴

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目6番13号 京橋ヨツギビル
(上記は登記上の本店所在地であり、本社業務は下記最寄の連絡場所において行っております。)

【電話番号】 03-3254-2501

【事務連絡者氏名】 取締役 堀田 欣弘

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田富山町5番地1 神田ビジネスキューブ

【電話番号】 03-3254-2501

【事務連絡者氏名】 取締役 堀田 欣弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 連結累計期間	第43期 第3四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日
売上高 (千円)	3,630,382	3,976,891	4,842,124
経常利益 (千円)	727,995	766,775	957,271
四半期(当期)純利益 (千円)	619,821	625,280	856,810
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	616,410	621,721	853,863
純資産額 (千円)	4,227,828	4,626,393	4,465,281
総資産額 (千円)	4,872,688	5,219,773	5,159,108
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	21.61	22.33	29.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	86.8	88.6	86.6

回次	第42期 第3四半期 連結会計期間	第43期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.86	9.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下の通りであります。

(情報提供事業)

当第3四半期連結累計期間において、ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に現地企業との合弁会社となるMirac Company Limitedを設立したことにより連結の範囲に含めております。

この結果、平成27年11月30日現在では、当社グループは、当社、子会社4社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第3四半期連結累計期間における財政状態及び経営成績の分析は、以下の通りであります。なお、文中における将来に関する事項については、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策の継続による円安・株高傾向を背景に、企業収益の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめとする新興国の景気減速の懸念や実質賃金の伸び悩みによる個人消費の伸び率の鈍化等、先行き不透明な状況が続いております。

雇用情勢については企業収益の改善が続く中で採用意欲の回復傾向は継続しており、当社の戦略地域である静岡県においては平成27年11月度の有効求人倍率は1.25倍となっており、緩やかながらも上昇が継続しております。

このような状況において当社グループでは、魅力ある情報サービスを開発・展開し、商品力・販売力を強化することで地域の競争力強化と収益基盤の拡大を図ることに注力いたしました。

当社の主力事業である求人情報事業では、人員等の増員により営業力の強化を図り、地域競争力の強化に努めました。また、紙媒体（『DOMO（ドモ）』・『求人あどむ』）、ネットサービス（『DOMO NET（ドモネット）』・『JOB（ジョブ）』・『TSUNORU（ツノル）』）、リアルイベント（『シゴトフェア』）、人材紹介等多様な商品ラインナップを揃え、お客様の様々な求人ニーズに応えるべく人材サービスの拡大・拡充に努めました。

ペット関連事業では、ペット関連情報誌『WONDERFUL STYLE（ワンダフルスタイル）』において、ユーザー満足度の向上を図るため平成27年6月にリニューアルをいたしました。また、関連イベントである『DOG！（ドッグ）フェスタ』は平成23年に初開催してから継続5年目に入り、地域に根差したペット関連イベントとしての認知が定着してまいりました。

当連結会計年度より開始しました外国人採用支援事業では、日本国内のミャンマー人を対象にした人材マッチングイベント『ミャンマーJobFair（ジョブフェア）』を平成27年5月に開催しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は3,976百万円（前年同四半期比9.5%増）となりました。売上原価は、1,183百万円（前年同四半期比15.0%増）、販売費及び一般管理費は、2,026百万円（前年同四半期比8.3%増）となりました。前連結会計年度に取得した子会社に係る費用や営業力強化のための人件費等が増加したものの、当該子会社や販促支援事業、求人サイトの増収等により営業利益は766百万円（前年同四半期比5.0%増）、経常利益は766百万円（前年同四半期比5.3%増）、四半期純利益は625百万円（前年同四半期比0.9%増）となりました。

セグメント別の業績（セグメント間の内部取引消去前）を示すと、次のとおりであります。

（情報提供事業）

情報提供事業では、既存商品である『DOMO』の販売は横ばいに推移したものの、『DOMO NET』及び『JOB』等の求人サイトや前連結会計年度に取得した子会社が発行する合同求人チラシ『求人あどむ』の販売が寄与し、売上高は3,239百万円（前年同四半期比7.8%増）、セグメント利益は1,122百万円（前年同四半期比1.7%減）となりました。

（販促支援事業）

販促支援事業では、主たる売上であるフリーペーパーの取次において既存顧客における掲出量の増加傾向は継続しており、販売は好調に推移いたしました。また、関西以西への販路拡大による販売増加、ダイレクトプロモーションにおける顧客獲得が順調に進んだことも寄与し、販促支援事業における売上高は764百万円（前年同四半期比17.7%増）、セグメント利益は127百万円（前年同四半期比27.6%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が5,219百万円（前連結会計年度末比1.2%増）、負債が593百万円（前連結会計年度末比14.5%減）、純資産が4,626百万円（前連結会計年度末比3.6%増）となりました。また、自己資本比率は88.6%となりました。

資産の部では、流動資産が4,343百万円（前連結会計年度末比1.3%増）となりました。内訳として、現金及び預金が3,360百万円（前連結会計年度末比2.9%増）、営業債権（受取手形及び売掛金）が663百万円（前連結会計年度末比6.1%増）等となったためです。

固定資産は876百万円（前連結会計年度末比0.6%増）となりました。内訳として、有形固定資産が626百万円（前連結会計年度末比0.1%増）、無形固定資産が78百万円（前連結会計年度末比1.8%減）、投資その他の資産が171百万円（前連結会計年度末比3.4%増）となったためです。

負債は593百万円（前連結会計年度末比14.5%減）となりました。これは、未払金が395百万円（前連結会計年度末比4.7%増）、賞与引当金が51百万円（前連結会計年度末比45.0%減）等となったためです。

純資産は4,626百万円（前連結会計年度末比3.6%増）となりました。これは、四半期純利益の計上、剰余金の配当により利益剰余金が4,627百万円（前連結会計年度末比8.7%増）、自己株式の取得により自己株式が1,005百万円（前連結会計年度末は792百万円）となったためです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	136,700,000
計	136,700,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年1月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,637,249	33,637,249	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	33,637,249	33,637,249	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年11月30日	—	33,637,249	—	455,997	—	540,425

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成27年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,844,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,790,000	277,900	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,249	—	—
発行済株式総数	33,637,249	—	—
総株主の議決権	—	277,900	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アルバイトタイ ムス	東京都中央区京橋 2-6-13	5,844,000	—	5,844,000	17.37
計	—	5,844,000	—	5,844,000	17.37

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年9月1日から平成27年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,266,361	3,360,050
受取手形及び売掛金	625,130	663,386
その他	397,022	320,743
貸倒引当金	△622	△622
流動資産合計	4,287,892	4,343,558
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	158,274	155,787
土地	444,475	444,475
その他(純額)	22,574	25,820
有形固定資産合計	625,324	626,083
無形固定資産		
ソフトウェア	69,289	67,824
その他	10,606	10,606
無形固定資産合計	79,895	78,431
投資その他の資産		
その他	167,888	174,086
貸倒引当金	△1,891	△2,385
投資その他の資産合計	165,997	171,700
固定資産合計	871,216	876,215
資産合計	5,159,108	5,219,773
負債の部		
流動負債		
未払金	377,241	395,107
未払法人税等	60,677	30,305
賞与引当金	93,272	51,336
その他	161,552	114,413
流動負債合計	692,744	591,161
固定負債		
繰延税金負債	1,083	2,217
固定負債合計	1,083	2,217
負債合計	693,827	593,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,997	455,997
資本剰余金	540,425	540,425
利益剰余金	4,258,203	4,627,045
自己株式	△792,505	△1,005,875
株主資本合計	4,462,121	4,617,593
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,159	6,534
為替換算調整勘定	—	△943
その他の包括利益累計額合計	3,159	5,591
少数株主持分	—	3,208
純資産合計	4,465,281	4,626,393
負債純資産合計	5,159,108	5,219,773

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	3,630,382	3,976,891
売上原価	1,029,600	1,183,779
売上総利益	2,600,782	2,793,111
販売費及び一般管理費	1,870,686	2,026,545
営業利益	730,095	766,565
営業外収益		
受取利息	379	446
受取賃貸料	632	630
為替差益	—	2,313
その他	1,187	3,108
営業外収益合計	2,198	6,498
営業外費用		
自己株式取得費用	1,905	1,931
投資事業組合運用損	1,051	1,911
違約金	644	1,982
その他	698	462
営業外費用合計	4,299	6,288
経常利益	727,995	766,775
税金等調整前四半期純利益	727,995	766,775
法人税、住民税及び事業税	65,351	74,257
法人税等調整額	42,822	72,599
法人税等合計	108,174	146,857
少数株主損益調整前四半期純利益	619,821	619,918
少数株主損失(△)	—	△5,362
四半期純利益	619,821	625,280

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	619,821	619,918
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,410	3,374
為替換算調整勘定	—	△1,571
その他の包括利益合計	△3,410	1,802
四半期包括利益	616,410	621,721
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	616,410	627,712
少数株主に係る四半期包括利益	—	△5,991

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に現地企業との合弁会社となるMirac Company Limitedを設立したことにより連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
減価償却費	41,870千円	39,005千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月27日 定時株主総会	普通株式	233,545	8	平成26年2月28日	平成26年5月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において、平成26年4月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得
を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が174,539千円増加し、当第3四半期連結
会計期間末において792,505千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月26日 定時株主総会	普通株式	256,438	9	平成27年2月28日	平成27年5月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において、平成27年4月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取
得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が213,369千円増加し、当第3四半期連
結会計期間末において1,005,875千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	情報提供	販促支援	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,002,557	627,825	3,630,382	—	3,630,382
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,030	21,111	22,141	△22,141	—
計	3,003,587	648,936	3,652,524	△22,141	3,630,382
セグメント利益	1,142,806	99,753	1,242,560	△512,464	730,095

(注) 1. セグメント利益の調整額△512,464千円は、セグメント間取引消去3,330千円、のれん償却額△9,384千円及び全社費用△506,410千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	情報提供	販促支援	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,239,189	737,701	3,976,891	—	3,976,891
セグメント間の内部売上高 又は振替高	68	26,350	26,418	△26,418	—
計	3,239,257	764,051	4,003,309	△26,418	3,976,891
セグメント利益	1,122,933	127,257	1,250,190	△483,625	766,565

(注) 1. セグメント利益の調整額△483,625千円は、セグメント間取引消去3,330千円及び全社費用△486,955千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	21円61銭	22円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	619,821	625,280
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	619,821	625,280
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,672	27,995

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 1月12日

株式会社アルバイトタイムス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早 稲 田 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 崎 光 隆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルバイトタイムスの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年9月1日から平成27年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アルバイトタイムス及び連結子会社の平成27年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年1月13日
【会社名】	株式会社アルバイトタイムス
【英訳名】	ARBEIT-TIMES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 垣内 康 晴
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目6番13号 京橋ヨツギビル
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 垣内康晴は、当社の第43期第3四半期（自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。